

巻頭言

建学の精神と人間主義経営の追究

編集担当 山 中 馨

創立者は、松下幸之助氏との対談の中で創価大学の教育、研究について次のように述べている。「具体的な教育方針、研究の方向のなかに、今あげた三つの理念が、なんらかのかたちで、生かされ、にじみでるものであってほしいと希望しております」^[1]。ここで言われている三つの理念とは、以下の三つのモットーである。

- 一、 人間教育の最高学府たれ
- 一、 新しき大文化建設の揺籃たれ
- 一、 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

これら三つの理念を教育、研究の面で具現化したものが経営学部における人間主義経営の授業であり、また学部生と教員によるその学究であることをしっかりと認識しておきたい。

人間主義経営の追究は、創立者の人間主義思想を現実社会の組織経営という不断の課題に如何に適用させ、具現化させていくかの研究である。これは、「大文化建設の揺籃」であるべき創価大学の「新しき人間文化の創造」^[1]の精神闘争である。

また、その人間主義経営の究極の目的は、誰もが幸せな生活を営む社会の実現であり、「平和を守るフォートレス」であるべき創価大学の使命を積極的に実現しようとするものである。「真理と真の人間の価値を追究する大学であれば、なによりも、平和を守る頑強な要塞であってほしい」^[1]との創立者の要請にこたえる有力な手段が、この人間主義経営の追究である。

以上の二点を踏まえれば、経営学部における人間主義経営についての教育と研究の位置づけは、「なによりも、人間であることの意味を考え、人間としての生き方を学ぶ」^[1]ものである。経営学部は、この人間主義経営の教育と研究により創価大学を「いっさいの学問の原点として“人間”をおくことを忘れない」^[1]「人間教育の最高学府」たらしめているのである。

[1] 松下幸之助、池田大作 著「人生問答」、『池田大作全集』第8巻 対談、聖教新聞社、1993